



SAMURAI ブルーから学ぶ ～世界に誇れる日本の文化～

校長 荒井 宏明

連日、サッカーワールドカップの熱戦が世界中に届けられています。とりわけ、日本代表チームの活躍は、多くの人々に勇気と感動を与え、日本中が久しぶりに明るい話題に包まれているように感じます。私もテレビの前で日本代表に熱い声援を送っています。皆さんの中にも、同じように応援に夢中になっている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

その日本代表を率いる森保一監督が、チュニジア戦前の記者会見で、海外の記者から「日本代表がロッカールームをきれいに掃除して帰ることや、日本のサポーターが試合後にスタジアムのごみを拾うこと」についての質問を受けました。その際、森保監督は次のように話しています。「これは本当に日本が世界に誇れる文化だと思います。多くの国民が『帰るときは来たときよりも美しく』という言葉を知っています。我々チームも最後はロッカーを掃除して帰ります。サポーターの皆さんもスタジアムのごみを拾って帰ります。そこは日本の文化なのかなと思います。」

この言葉とともに、日本代表やサポーターの姿は世界中のメディアで紹介され、多くの称賛を集めました。私は誇らしく思うと同時に、教育に携わる者として、とてもうれしい気持ちになりました。



世界から評価されたその姿は、一朝一夕に身に付いたものではありません。その土台の一つが、毎日の学校生活の中にあるのではないのでしょうか。日本では、**小学校一年生から自分たちの教室を掃除**します。このように子どもたち自身が毎日学校を掃除する文化は、**世界的に見ると大変珍しい**と言われています。教室だけでなく、図工室や家庭科室などの特別教室を利用した後も、「来たときよりも美しく」を合言葉に掃除や片付けを行うことが当たり前になっています。掃除は、単に学校をきれいにするためだけの活動ではありません。**公共の場を大切に**する心、そして、**次に使う人のことを考えて行動する思いやり**を育む学びでもあります。また、「できることを進んで行う」という主体性や社会性を育てる、大切な教育活動でもあります。

世界から称賛された行動は、日本にとって決して特別なことではありません。毎日の「掃除」、「挨拶」、「靴をそろえる」といった小さな行動の積み重ねが、自然と身に付き、大人になってからも当たり前の行動として表れているのだと思います。

「楽しい わたしの学校」にしていくためには、大きな行事や特別な出来事だけではなく、**一人ひとりが挨拶を交わし、掃除をし、使ったものを元に戻し、友達を思いやる。そのような日々の小さな行動が積み重なる**ことで、学校は温かく、もっと楽しい場所になります。そして、その積み重ねは、やがて社会に出たときにも自然に人のために行動できる力となり、**日本の未来を支える力**へとつながっていきます。

これからも子どもたちとともに、「楽しい わたしの学校」を目指し、小さな行動を一つ一つ積み重ねてまいります。保護者・地域の皆様におかれましても、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

7月&8月の生活目標 人の話をよく聞き、落ち着いて行動しよう
・正しい姿勢で学習しよう

<夏季休業中の緊急時の連絡先>

- 閉庁期間中（8/3～8/16）** **緊急時**で学校に連絡が必要な場合
横浜市教育委員会 南部学校教育事務所 045-843-6408（8:30～17:15）
- 8/3～8/16以外の夏季休業期間中** **緊急時**で学校に連絡が必要な場合
通常どおり釜利谷小学校 045-781-2468（8:15～16:45）